都道府県名	徳　　島

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	平谷小学校								
学　年	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	8
児童数	１１	7	6	5	9	7	0	４５	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

基礎基本の定着を図るための個に応じた効果的な指導法の工夫

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・全学年の算数

一つのつまずきがその後の学習に大きく影響するであろうと予想できる教科であることと，多くの児童が同じような単元でつまずくことも多く認められるから。

・全学年の国語

文章を読む力や語句を覚えること，人前で発表する力などすべての学習の基礎基本となると考えたから。

(2)年次ごとの計画

平成14年度	平成１５・１６年度指定校ですので、実践しておりません。

平成15年度	○テーマ　　基礎基本の定着を目指した指導法の工夫 ○研究の見通し（仮説） 確かな学力が定着することで，児童一人ひとりが生き生きと活動し，学ぶ楽しさを実感できるようになると考えている。そのためには，教師一人ひとりが児童の基礎学力の定着を目指して，その効果的な指導法を研究し，指導力を向上させていく必要がある。そこで，少人数指導や習熟度別学習に取り組み、児童一人ひとりに対応した指導をすすめることで，すべての教科の基礎となる読み書き計算力が向上し，意欲的に学習に取り組む児童が育つであろうと考えた。

	○研究の内容・方法 ①児童理解への取り組み ・つまずき発見テストや学力診断テストの実施 ・アンケートの実施（教科・読書） ②基礎学力を高める取り組み ・少人数指導の研究 ・習熟度別学習の研究 ③特設した学習時間での取り組み ・読書タイム ・わくわくタイム ④評価の工夫 ・個人ファイルの作成

平成16年度	○テーマ　　基礎基本の定着を目指した指導法の実践 ○研究の見通し（仮説） 確かな学力が確実に定着するためには，１５年度の研究を継続的にすすめていくことと児童の実態把握から１５年度の成果を確認した上で指導法を見直していくことが必要であると考える。 そこで、少人数指導や習熟度別学習に加え、学年の枠をはずした全校的な取り組みを実践していきたい。また、ミニテストやマス計算表などの指導資料の開発・工夫を進めていきたい。この実践によって、児童一人ひとりがさらに生き生きと活動し，学ぶ楽しさを実感できるようになるのではないかと考えている。 ○研究の内容・方法 ①児童理解への取り組み（成果と課題の把握・保護者との連携） ・つまずき発見テストや学力診断テストの実施 ・アンケートの実施（教科・読書） ・家庭学習と児童の生活習慣との密接な関係を考慮した児童の生活実態調査の実施（保護者の願いアンケート） ・平谷の児童に身につけさせたい力の共通理解 ②基礎学力を高める取り組み ・系統的な指導計画の作成と指導案の形式確立 ・指導資料の開発と活用 ・少人数指導の研究 ・学年の枠をはずした全校的な習熟度別学習の研究 ・観点別評価表や個人カルテの有効性の実証と内容の充実 （特に優れた面と特に指導を要する面） ③発表する力をつける取り組み ・わくわくタイムの充実 ・１分間スピーチや発表ルールの工夫

・役割演技やペープサートの実践

④意欲的・自主的に活動できる学習へ導くための取り組み

・教材教具の収集、開発と活用

・家庭学習や日記指導の工夫

⑤評価の工夫・改善

・個人ファイルの見直し

(3)研究推進体制

○指導体制

①少人数指導

僻地小規模校の特性を生かし，よりきめ細やかな指導に取り組む。

②習熟度別学習

児童の理解や習熟の程度に応じて，きめ細やかな指導に取り組む。

○研究組織

学力向上推進委員会

- 授業研究部：研究授業，基礎基本の定着，教材研究，評価
- 実践活動部：表現力・実践力の育成，活動の立案計画

Ⅲ　平成１５年度の研究成果及び今後の課題

１．研究の成果

①児童理解への取り組み

児童の実態把握のためにいくつかのテストやアンケートを取った。今まで気づかなかった児童の思いや願いを知るとともに、児童の多くが共通してつまずいてしまう単元、高学年になっても苦手意識をもってしまう単元などが明らかになってきた。

(ｱ)つまずき発見テスト

１～５年生までの算数の計算に関する全ての単元を抜き出したもので，この結果を基に個人ファイルを作成した。

(ｲ)学力テスト

前学年の国語と算数の市販学力テストは，個人のデータが単元ごとに詳しく分析されているので，児童の学力を把握しやすい。

(ｳ)国語・算数学習についてのアンケート

児童の意識や思いを把握するためのもので，国語では漢字を覚える・作文を書く・人前で発表するという点で，好き嫌いの差がはっきりと出た。また算数では，わかりにくいところがあると答えた児童のほとんどが「算数が苦手である」と答

えていることがわかった。

(ｴ)読書アンケート

児童の読書に対する意識と変容について調べた。「今まで読んだことのない本を読むようになった」「読書が楽しくなった」と答えている。

②基礎学力を高める取り組み

(ｱ)習熟度別学習

低中高学年それぞれが複数の担任による習熟度別算数教室を実施している。1年生は，海川小学校との交流学習時に「計算問題コース」と「文章問題コース」に分かれて実施している。2年生も海川小学校との交流学習時に「どんどん学習を進めるコース」と「復習しながらゆっくり進むコース」に分かれて実施している。

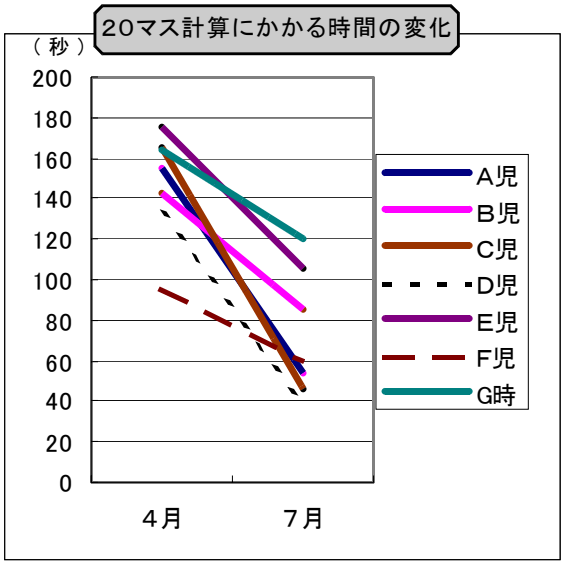
中学年は交流学習も含めてそれ以外の場でも,「どんどん学習を進めるコース」と「復習しながらゆっくり進むコース」に分かれて習熟度別学習を実施している。

高学年は,「わり算ワールド」などのような四則計算教室と「体積ワールド」や「角度ワールド」など子どもたちがアンケートで苦手だと答えた単元や担任の方から事前に伝えられた定着していない単元を復習するクラスを5・6年担任が開催し，子どもたちもどちらか選んで学習する単元別算数教室を実施している。

児童自らすすんで教室を選んだり、自分の得意なプリントや苦手なプリントを選択するなど、児童の学習意欲も徐々に高まってきている。また、苦手としていた単元の理解も徐々に深まり、基礎学力も定着しつつある。

(ｲ)マス計算

基礎的な計算に慣れ，計算力の向上をねらいとして実施している。自己記録の向上というめあてで意欲を出す児童が多く，時間の記録で自己の向上がわかることが学習意欲にもつながっている。



	4月	7月
A児	155	54
B児	143	85
C児	165	46
D児	132	39
E児	175	106
F児	95	59
G児	164	120

（単位　秒）

(ｳ)読み書き指導

基礎学力の向上という目的で，漢字のミニテストの実施，音読カードやワークシートの活用などにも取り組んでいる。

早朝読書の時間をふやすことで，読書に対する意欲も高まるとともに，学習に集中して取り組み，進んで音読する児童がふえてきた。

国語の学習中に読み書きの活動を積極的に取り入れ,基礎的な力が伸びてきた。

③特設した学習時間での取り組み

(ｱ)読書タイム

週２回早朝読書を実施している。読書アンケートの結果や授業中の態度などから，読書や音読に対する興味が深まってきているという様子が見られるようになってきた。

早朝読書でどんなところが変わったかという質問では,「今まで読んだことのない本も読むようになった。」６７％,「本を読むのが楽しくなった。」６４％,「 前より本を読むことが多くなった。」４３％,「図書室や教室の本を借りて読むことが多くなった。」１７％，と児童は答えている。このことから，早朝読書を通して，児童は，本が好きになり，様々な本を読むようになってきていることがわかる。また,「文がすらすら読めるようになってきた。」と答えた児童も３６％もいた。これは，特に低学年にみられるが，読書が，児童の文を読む力をつけることにも役立っていると考えられる。

(ｲ)わくわくタイム

毎週月曜日，全校朝会のあと全校児童の前で発表を行う「わくわくタイム」を実施している。大勢の前でも，自分の思いや意見を表現できる力や言葉がもつリズム・響き・テンポなど聞き味わうとともに，人のよさを感じ取る力をつけさせたいと考えている。大勢の前でも，学級で発表するのと変わりない様子で発表できるようになってきた。また、普段の音読や学習に意識して取り組む児童がふえてきている。

④評価の工夫

算数と国語についての観点別評価表を作成し，これを元に個人ファイルを作った。学習中に個人カルテを活用することで，その場で個に応じた指導がしやすくなってきた。また、学習後のミニテストチェックカードや音読カードを活用することで、継続的に個に応じた支援をすることができるようになってきた。

２．今後の課題

○児童の実態把握に関すること

①　実態把握のための調査分析を進めたが，さらに細かく分析していく必要がある。

・児童の実態把握のための調査の実施（教科と読書）

・保護者の願いや学力についての考え方を考慮に入れた実態調査の実施（保護者の願いアンケート）

・家庭学習と児童の生活習慣との密接な関係を考慮した児童の生活実態調査の実施（児童の生活実態調査）
・平谷の児童に身につけさせたい力の共通理解（学力を幅広くとらえて指導にあたる）

○指導に関すること

① 学習後のミニテストなどで児童の学習理解度を適宜把握する必要があると感じてきたが，年間を通して継続的に実践できたとはいえない。
・各単元終了後の学力定着確認テスト（ミニテストなど）の年間を見通した実施（時期を見計らった的確な実施）

② 指導案の形式を確立していく必要がある。（系統的な指導計画の作成）
・系統的な指導計画の作成と指導案の形式確立

○評価に関すること

① 作成した観点別評価表が詳細すぎ，学習に十分生かしきれていない。
・観点別評価表や個人カルテの有効性の実証と学級の実態にあった内容の精選と充実

Ⅳ　学力等の把握のための学校としての取組

○　漢字計算テスト
　単元ごとに知識や計算力が定着しているかどうか確認するため、国語と算数について学期末に実施している。

○　学力テスト
　児童の実態把握のため、国語と算数について１学期の終わりに実施した。３学期の終わりにも実施する予定にしている。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　那賀・勝浦・小松島地区学力向上フロンティスクール指定校研究発表会
　　上那賀町平谷中学校（平成１５年１１月１４日）

○　学力向上フロンティスクール指定についての保護者への啓発
　　家庭教育学級（平成１５年１２月２日）

【新規校・継続校】　■15年度からの新規校　□14年度からの継続校

【学校規模】　■6学級以下　□７～１２学級　□１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導　□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　■国語　□社会　■算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導法の工夫改善に関わる加配の有無】　□有　■無